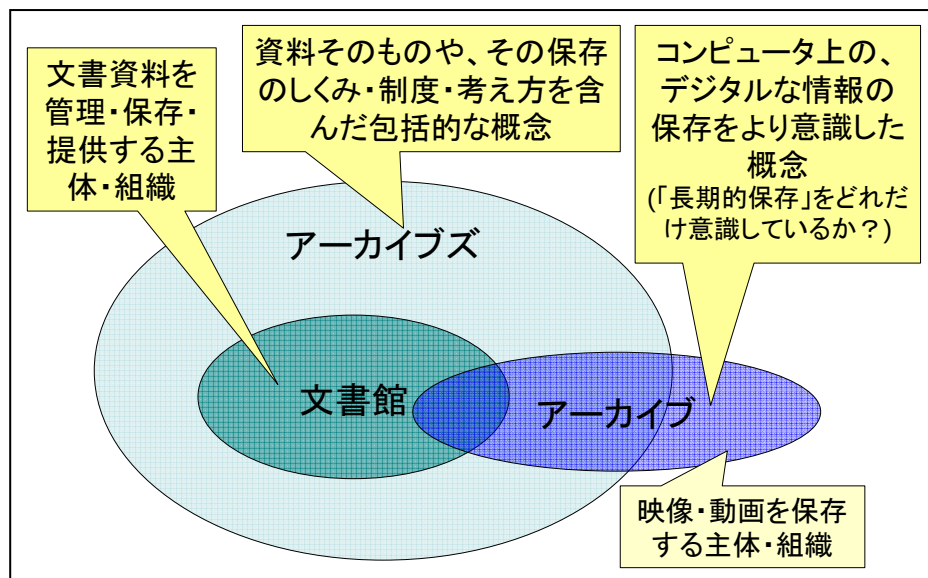


MLA 連携の概要（田窪論文をもとに）

【はじめに一前回のフォローアップ】

◆ 「アーカイブ（ズ）」のこぼれをめぐって



◆ 「デジタルアーカイブ」関連の、日本国内での実例

* 国立国会図書館 <http://www.ndl.go.jp/>

- ・ PORTA（国立国会図書館デジタルアーカイブポータル） <http://porta.ndl.go.jp/portal/dt>
- ・ 近代デジタルライブラリー <http://kindai.ndl.go.jp/>
- ・ WARP（インターネット情報選択的蓄積事業） <http://warp.ndl.go.jp/>

* 国立公文書館 <http://www.archives.go.jp/>

- ・ デジタルアーカイブ <http://www.digital.archives.go.jp/>
- ・ アジア歴史資料センター <http://www.iacar.go.jp/>

* 文化財関連

- ・ 文化遺産オンライン <http://bunka.nii.ac.jp/Index.do>
- ・ 京都国際文化交流財団 静止画アーカイブ（旧・京都デジタルアーカイブセンターの事業を継承）
<http://archives.kyo-bunka.or.jp/>
- ・ 石川新情報書府 <http://shofu.pref.ishikawa.jp/>

（参考：「デジタルアーカイブ推進協議会」は 1996 年発足、2005 年解散

関連情報 <http://www.dcaj.org/jdaa/index.htm> ）

* 京都大学電子図書館貴重資料画像 <http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/index.html>

* 京都大学学術情報リポジトリ「KURENAI」 <http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/>

【田窪論文より】

◆ 田窪教授が考える MLA 連携の難易

（受講生の皆さんの意見・感想はどうか？）

＊ 3つの観点から

- ・ 利用 vs 保存
- ・ 専門職の研究者性
- ・ メディアとしての資料の違い：メッセージとキャリアー（モノ）の観点から
 - 図書館（L）資料：メッセージ志向
 - 博物館（M）資料：キャリアー志向
 - アーカイブズ（A）資料：上 2 つの中間

＊ M・L・A の連携の難易

- ・ L—A、M—A は容易
- ・ M—L は困難

◆ 利用者として「どこで資料が分有されているか関係なし、分有は迷惑」は本当か？

＊ そもそも「3 館連携のイメージ」が実感できるか？

◆ 目録情報の共有とメタデータ標準

- ＊ 「資料記述の構造化」と、さまざまな記述要素を連携・結合するしくみ
- ・ FRBR（Functional Requirements for Bibliographic Records）